

認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト

第5回 (H22. 9. 17)

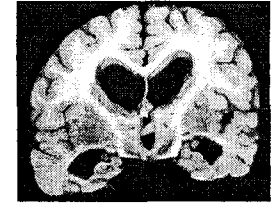
遠藤委員提出資料

遠藤委員提出資料

認知症の医療とケアにおける 国立長寿医療研究センターの使命

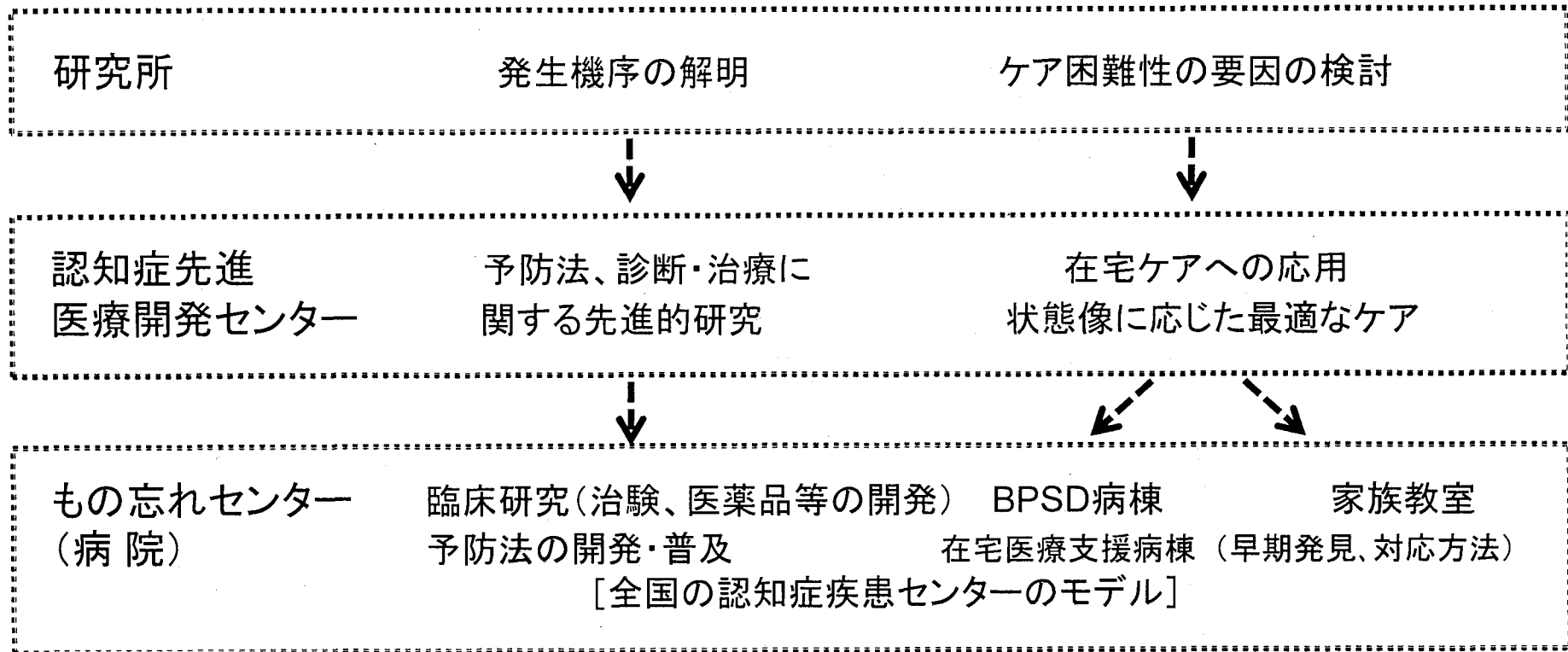
- 国立長寿医療研究センター(NCGG)では、平成22年4月の独立行政法人への移行を機に、我が国の認知症対策に資する開発研究を先導すべく「認知症先進医療開発センター」を開設し、さらに、認知症の臨床研究を総合的に実施する「もの忘れセンター」を本年9月に開設した。今後も「治療薬開発(治験)」をふくめ、人材・施設面から態勢強化をさらに図る予定である。
- アルツハイマー病を中心に、分子病態の理解の上に、画期的な治療薬並びに新たな分子イメージング用プローブの開発を行う。併せて、アルツハイマー病の鑑別上重要な白質病変を伴う血管障害性認知症の病態把握と診断法の確立をも目指すものである。
- また、NCGG研究所には、既に、アルツハイマー病の病態研究から生まれた創薬シーズが蓄積している。
- 長寿医療研究センターでは態勢整備をさらに進め、NCGGにおいてのみ可能な事業を行い、NCGGが中核となる認知症研究コンソーシアム形成の基盤とする。
- 近い将来、認知症の克服をもたらすのみならず、我が国の次代の研究を担う人材育成や創薬関連産業の活性化にも大きく貢献するものである。

国立長寿医療センターの新しい機能



中期的な取組課題

成果を直ちに活用できる課題
(早期発見、ケア等)



ネットワークの形成

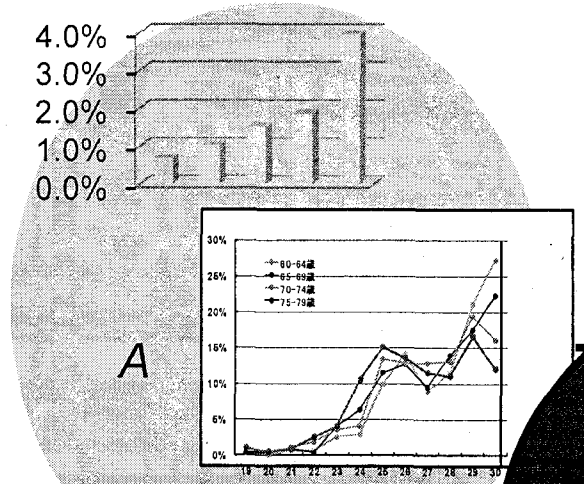
政策提言の均てん化

- 高齢者医療の充実
- 看護師養成の強化

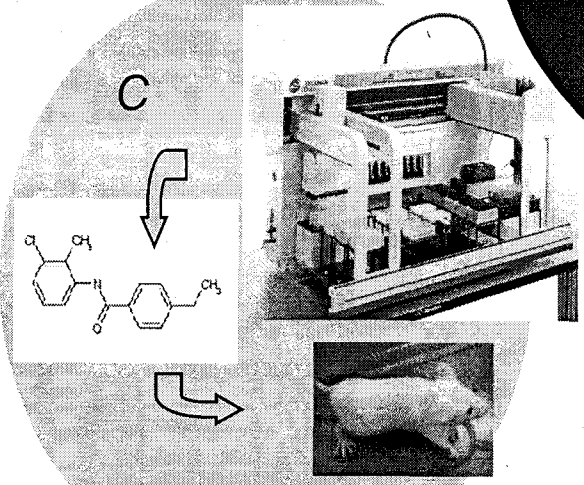
- 全国の研究機関との情報交換
- 企業等との連携

- ケアの費用対効果
- 認知症サポート医研修/フォローアップ研修

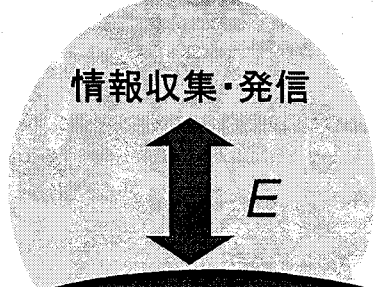
認知症先進医療開発センターは、認知症の【予防】【診断】【治療】【ケア】の先進的医療開発を行い、認知症医療に関する最新の情報を収集・発信します。また、医療機関・研究機関・厚生労働省と密接に連携し、効果的な開発体制を構築し、我が国の認知症対策の中核として貢献することを目指します。



A) 長期縦断疫学研究から認知症予防法の開発

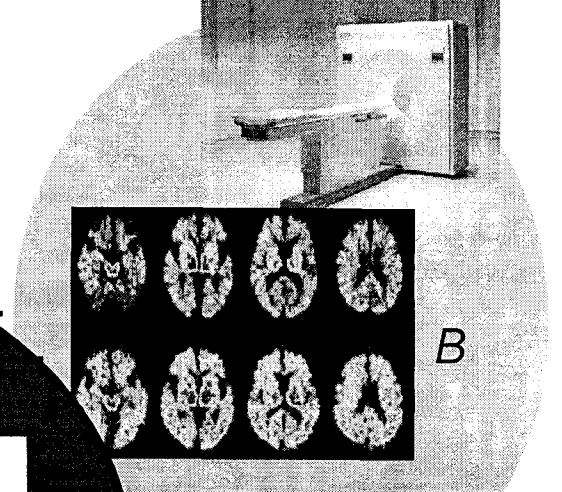
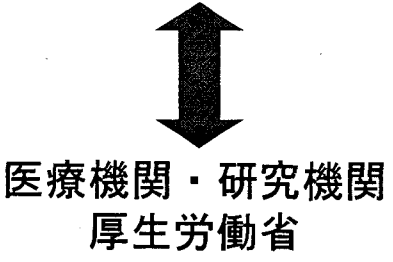


C) アルツハイマー病根治薬の開発

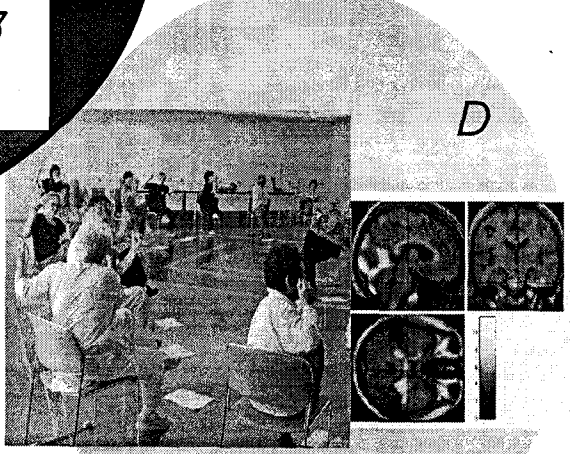


認知症先進医療開発センター

- A) 予防開発部
- B) 脳機能画像診断開発部
- C) 治療薬探索研究部
- D) 在宅医療・自立支援開発部
- E) 先進医療データ管理室



B) 認知症を早期に捕捉する脳画像診断法の開発



D) 運動介入による認知機能維持法の開発

国立長寿医療研究センター『もの忘れセンター』

認知症診療の先進的中核をめざします。(本年4月に設置し、9月に稼働)

- 認知機能の治療に加え、各科医師が共同で行う必要な治療の他、生活指導や栄養相談を実施
- 薬物療法に加え、運動療法や音楽療法、回想法など非薬物療法を充実
- 家族の心のケアなどを目的として家族教室(もの忘れ教室)を開催

